

1、開會の辭
2、演説

益農中央委員 田原春次

○ 福岡縣會議員 伊藤卯四郎

特別議會に提出された多くの法律案中最も慎重に取扱れたのは退職積立金及退職手当法案であつた之に對する資本家の反對には猛烈に闘つたのである。骨抜きにはなつたが議會を通過せしめたと青ふ事は無産黨の体力であつた。

全国的に社大黨は目覺しく進出してゐる今後共絶大なる大衆の支援を願ひ決死を以て奮念に邁進する事を誓ふ

○ 代議士 三宅正一

今回の特別議會は色々な意味から重大な變化を持つたのである先づ二月の總選挙で一躍二十二名の無産代議士を

得た事、次に二、二六事件並に二、二六事件による戒嚴令下に開かれた議會であつた事等であるこの危機に瀕した事を意味する今議會で如何なる感想を持つたか。

先づ二、二六事件で拾つた廣田内閣は庶政一新、生活の安定を叫んでゐるが首相の議會に於ける答辨に日々起る社會の悲惨事は深刻な政治機構の過りを直ほす事だ、具體的方法は目下調査研究中であると答へてゐるが根本は資本主義に弊を加へる外に方法はないと斷言する。

二、二六事件の起つた原因は政、民を中心とする既成政黨財閥が無産階級を断絶したることに因るものであつて庶政一新、國民生活の安定に力を盡させねば議會は潰れんとして居る状態にある従前よりも眞面目な議會ではあつたが眞の使命より見るならば落第だ、之は現在の選挙